



H16.9.21発行
横浜市教育委員会事務局



第2回栄区小規模校再編検討委員会

平成16年8月27日(金)開催
栄区役所新館8号会議室

再編検討の経緯

第1回検討委員会の内容

1 横浜市の小・中学校の現状とそれに対する方針の説明

全国的に少子化が進んでいますが、横浜市においても、市立小中学校の児童生徒数は年々減少しています。それに伴って、小規模校（小学校11学級以下・中学校8学級以下）の数も小学校55校・中学校19校と10年前の3倍に増えて様々な問題点が指摘されるようになりました。

そこで、横浜市では、平成15年12月に「横浜市内小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」を策定し、小・中学校の小規模化問題に取り組むこととしました。

（基本方針等URL：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>）

2 栄区の現状・検討対象校についての説明

今回の検討対象は、小学校が犬山小・桂台小・上郷南小・公田小・野七里小・矢沢小の6校、中学校は、桂台中・上郷中・庄戸中の3校です。

これらの学校のある本郷中央・上郷西・上郷東連合地区は、昭和50年代に次々と住宅地が開発され、ピーク時（昭和55年）には小学生が約6,300人、中学生が約3,300人いました。

しかし現在、小学生は6校合わせて約1,500人、中学生は3校で約700人になっています。今後も減少傾向が続くことが予測され、クラス替えのできない単学級の学校が増えていきます。

3 会議の席上で出されたご質問・ご意見（要約）

再編時期の目標はあるのですか。

通学区域はどのようにして決めるのですか。

桜井小、本郷小も再編検討をするのですか。

両校は、現在、適正規模の範囲内であるため、再編は考えておりません。

教育委員会は、地域の状況をよく見て計画してください。

この検討委員会では、大きな視点で検討を進めてください。

学校統合は避けられない問題だと思いましたが、子どもの気持ちを大切にしてください。

問題が起きた時、単学級よりクラス替えのできる学校経営が望ましいと考えます。

小規模校同士を合わせて適正規模校にしていく考え方は、基本にして良いと思います。

学校経営にはお金がかかるということを頭に入れながら、最後まできちんと意見を出していきましょう。

教育委員会にFAXで寄せられたご意見（要旨）

小規模校は、トラブルが起きたときの解決が難しいのです。

子どもの人数が少ないため、気の合う子が見つかりません。

第2回検討委員会の内容



1 学校及び地域の現況についての説明

通学区域と自治会・町内会

：各小学校の自治会・町内会別の児童数と中学校の通学区域について説明がありました。

各小学校の通学路

：6小学校長から、現通学区域のなかで、遠いところや気をつけている所等について説明がありました。

学校別運営経費

運営経費には、教育費・施設等の維持管理費・人件費や学校医の報酬費などがあります。検討対象校ごとに平成15度分として概算し、一人当たりの経費を出してみました。これを横浜市の適正規模校（12～24学級）の中間の学級数（18学級）の学校と比較してみました。

小学校	児童数（人）	一人当たり（千円）
検討対象校	181～295	723～935
適正規模校	548	562

中学校	生徒数（人）	一人当たり（千円）
検討対象校	227～265	848～974
適正規模校	733	519

2 小規模校再編案について

考え方及び考慮事項 全会一致で了承されました。

考え方

小学校の再編を優先すること。
中学校については、小学校再編の結果を踏まえて検討すること。
再編後の新たな学校（統合校）の教育環境を向上させるため、
小学校と中学校の教育の連携を図れること。

考慮事項

通学距離・通学時間の観点から、通学区域の適正化を図れること。
再編後、適正規模を確保できること。
地域コミュニティとの関わりの観点から、自治会・町内会の
まとまりを考慮すること。

再編案

考え方及び考慮事項に基づき、6小学校を3小学校にする提案がなされました。
（再編場所はアンダーラインの学校施設を活用します。）

各委員が所属団体に周知し、次回に意見等を持ち寄ることになりました。

矢沢小 + 犬山小

野七里小 + 上郷南小

公田小 + 桂台小

説明

再編場所について

- ・再編後の通学区域において、通学距離・通学時間がより短いこと。
- ・中学校との連携、一貫した教育をすすめるためには、中学校と近接していること。
 - 犬山小 : 上郷中
 - 上郷南小 : 庄戸中
 - 桂台小 : 桂台中
- ・学校施設の改修や耐震補強による安全性も考慮する。
 - 犬山小 : 近く全面改修工事を予定しています。
 - 上郷南小 : 耐震補強工事が完了しています。
 - 桂台小 : 室内環境整備工事完了、耐震補強工事はH16年9月に完了します。



～ 次のようなご質問・ご意見が出ました～

～ ご質問～

6校の再編の実施時期の考え方について教えてください。

再編の順番・実施時期については、現時点では未定です。再編のためには、両校の事前の交流や新たな学校にふさわしい教育の特色等様々なことを検討する必要があると考えています。

湘南桂台自治会からは桂台小と矢沢小に分かれて通学しています。再編の際に現矢沢小の子どもたちを桂台小へ変更するということが可能なかどうか伺います。

検討委員会の検討項目のなかに「通学区域の変更」という項目があります。地域のまとまりという観点や、その他合理的な理由がある場合、再編と一部学区域の変更があってもよろしいのではないかと考えます。

例えば、矢沢小と犬山小との組合わせで統合した場合、平成22年度には12学級になりますが、この先、また減ってしまう状況になった場合、再々編の問題がでてくるのではないのでしょうか。10年後15年後を見据えて、6校を3校ではなく、1校または2校にするとか、長期的なビジョンのもとに検討できないのですか。

平成22年以降は、まだ生まれていない子どもの数を予測しなければなりません。地域の変貌や、年代構成等で長期に推計していくことが難しいという事情があります。他都市の例ですが、全学年が単学級になってしまった場合は別として、一度再編した学校については、その児童生徒が入学して卒業するまでは再度の再編はしていないようです。教育委員会としては、今の子どもたちに適正な規模で、教員も相応しい人数が配置された状態で活気ある学校生活を送っていただきたいと考えています。また、この地域で1～2校ということになりますと、通学距離・通学時間の問題が出てきます。さらに全部の児童を受け入れるための学校を新たに造らねばならないということにもなります。財政事情という問題もありますので、既存の学校を活用して、教育環境の向上を目指していきたいと考えています。

栄区内には、小山台小のようにずっと単学級のままの小学校が他にもありますが、こういう学校は再編しないのですか。

全学年単学級の学校については、できるだけ適正化していきたいと考えております。横浜市には、平成15年現在、小学校の小規模校が55校あります。教育委員会としては、順次着手していきたいと考えていますが、まずは、小規模校が隣り合っている学校を優先して再編していきたいと考えています。

再編後に残る学校の跡利用については、教育委員会として考えているのでしょうか。

教育委員会は、跡利用についての権限はもっておりません。貴重な行政財産ですから、栄区役所も含めて横浜市全体で有効活用を検討していくことになろうと思います。この検討委員会でもご意見を出していただくことになっています。

先行している緑区、金沢区の状況をお聞かせください。

緑区霧が丘地区の検討委員会は、5月にスタートし、9月に3回目を開催します。3小学校を1校再編する方向で、具体的な再編場所の検討に進んでいます。霧が丘地区にふさわしい教育について話し合うことも大事ではないかという意見が出ています。年内には検討委員会から、意見書が出されるのではないかと考えています。

金沢区並木地区の検討委員会は、6月にスタートし、9月に2校を1校にすることについて検討を重ねています。



～ ご意見～

今回、このような案が出たことは、保護者にとっては、衝撃的なことだと思います。再編場所になった保護者はよいのですが、移る方になったところは、心穏やかではないと思います。情報の周知といっても、異なる条件に置かれることとなりますので、PTAとしては、単独校ごとでなく、6校合同でアンケートをとっていきたいのですが。

今回、教育委員会から細かく案を出していただいています。次回までに、皆さんが関係する団体にこの情報を周知していただき、ご意見ご感想なりを第3回目に持ち寄っていただければ、検討委員会では、それをお受けして、参考にしていきたいと思っております。

再編の考え方として、今日の説明資料には入っていませんが、今ある学校で、残る学校となくなる学校という発想はもたないでいただきたいと思います。教育委員会の考え方としては6校とも一旦閉校し、新たな3校を誕生させるということです。新しい学校をつくるということで、前向きに、新学校名や教育目標などについて検討していただきたいと思います。

この地区の小規模校化の現実には直視せざるをえないでしょう。そういう現実に対して教育委員会が出してきた方向性について、我々は尊重しつつ、それに対して意見を出していきながら前に進んで行くことが大事だと思います。また、再編問題を長期計画でという質問に対して、一番確率の高い方法で進めるという教育委員会の考え方、これが今日の会議では大事なことだと思いました。

今日の資料を地元を持ち帰ったとき、切羽詰まった協議の場がでてくるとと思いますが、委員は委員として、再編のイエスかノーではなく、子ども達のためになるような有効な再編について協議して、次の会議に臨む必要があると感じました。再編と同時に、通学区域の変更も出てくるわけです。また、幹線道路をまたいで通学する子どもが再び出てきますから、その辺の対策についての検討も行政にはお願いしたいと思います。

どこの学校をなくすのか、あるいは残すのかということではないのです。そういう発想でこの会議または関係する会議にお出になるなら、それは改めていただきたいと思います。通学している学校がなくなるということは淋しい。それは当然のことです。でも、それを乗り越えて、栄区の子どもの教育をどうするのかを考えていく、それがこの検討委員会の目的なのです。一緒になって考えていきましょう。

事務局提案

栄区の場合エリアが広いので、場合によっては、部会、又は小委員会なりを設置して進めていく方法もよいのではないかと考えています。委員長に相談のうえ次回の検討委員会で提案をさせていただきますと考えています。

次回検討委員会の日程

平成16年9月30日(木) 18時～

栄区役所会議室

栄区小規模校再編検討委員会の経過・横浜市の基本方針等は ホームページでもご覧いただけます。

- * 横浜市教育委員会HP
- ・ 基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>
- ・ 栄区小規模校再編検討委員会：
<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

栄区小規模校再編検討委員会では、常に皆様からのご意見をいただいております。
FAXかEメールにて事務局までご連絡ください。

- ・ 栄区小規模校再編検討委員会事務局
横浜市教育委員会事務局学校計画課

TEL：671-3253 FAX：651-1417

Eメール：ky-sakae@city.yokohama.jp

